

試験日 : 2024年11月10日
入試種別 : 3年次編転入学試験問題
学部・研究科 : 心理学部
科目名 : 専門科目 専門科目

解答又は解答例

1 動機づけのなかで、自分の内側に誘因を探し、実現していこうとする方法を内発的動機づけという。内発的動機づけは、例えば、勉強が楽しいから勉強するというように、行動そのものに興味関心があり、楽しいと感じられているような状態である。一方、人がやる気を起こすために、外側から誘因となる報酬や叱責を与える方法を外発的動機づけという。外発的動機づけは、賞罰、強制、義務など、外からの働きかけによってもたらされる。例えば、大学に合格するために勉強する、上手くできないと恥ずかしいのでスピーチの練習をするなどは、これにあたる。外発的動機づけは、別の目標を達成するために行動が動機づけられている点に特徴があり、この点が内発的動機づけと異なっている。

2 古典的条件づけは、パブロフ (Pavlov, I. P.) により研究が始められた。パブロフは、まずイヌにベルの音を鳴らしてから肉粉 (エサ) を与える手続きを繰り返した。最初イヌは、肉粉に対してのみ唾液を出していたが、しばらくベルの音と肉粉を一緒に与えることを繰り返すと、イヌはベルの音を聞いただけで唾液を出すよう行動が変化した。これが古典的条件づけと呼ばれるものである。一方、オペラント条件づけとは、自発的な行動によって生じた環境の変化が、後の行動に影響を与えていく学習をいう。例えば、子どもが勉強することにより親がご褒美を与えると、子どもは勉強するとご褒美がもらえることを学習する。そして、その後は勉強をもっとするようになるなどである。

3 アトキンソン (Atkinson, R. C.) らは、短期記憶と長期記憶という記憶のモデルを提唱した。このモデルでは、短期記憶とは、数秒から数分の間、保持できる記憶のことであり、長期記憶とは、短期記憶以上の長期間、保持できる記憶のことである。短期記憶から転送された記憶が長期記憶になることもある。例えば、毎朝通学することによって、電車の時刻を覚えてしまう場合がある。これは、その時刻が短期記憶から長期記憶へと転送されたことをあらわしている。また、短期記憶にある情報を復唱したり、イメージを思い浮かべたりして長期記憶に送るリハーサルを行うことにより、長期記憶に情報が転送されることが考えられている。

4 エリクソン (Erikson, E. H.) は、精神分析理論をもとにして、生涯発達の視点から自らのライフサイクル理論を提唱した。また、彼は、心理・社会的な観点から、乳児期から老年期までの人間の生涯を8つの発達段階として捉え、それぞれの段階における心理・社会的な危機を示した。その心理・社会的危機は以下の通りである。1. 乳

児期：「基本的信頼」対「基本的不信」。2. 幼児期：「自律性」対「恥、疑惑」。3. 児童期：「自主性」対「罪悪感」。4. 学童期：「勤勉性」対「劣等感」。5. 思春期、青年期：「アイデンティティの確立」対「アイデンティティの拡散」。6. 成人期：「親密性」対「孤立」。7. 壮年期：「世代性」対「停滞」。8. 老年期：「統合」対「絶望」。

5 フロイト (Frued, S.) の創始した精神分析では、患者の示す神経症症状は、無意識でのエス (イド) と自我、超自我との関係により起こると考える。エスが強く働く場合には、それが自我に脅威を与え、自我は自らを守るために無意識的に防衛機制を働かせる。ただ、その防衛機制が過剰になると、症状が生じると考える。そのため、精神分析療法では、主に無意識のエスと自我とが適度なバランスを保てるように援助を行う。別の言い方をすれば、それは、無意識下にあるものに自我が気づき、洞察が起こることを援助するといえる。精神分析療法では、患者が自由に話すことが重要であると考えられており、フロイトは自由連想法という方法を用いた。